



各地の城門(外郭施設の門)

奈良・平安時代に造営された門は、秋田城以外に多く発見されています。いくつかの遺跡では立体的に復元されたものがあり、その特徴によりそれが担った役割や遺跡の特徴が窺えます。



画像提供：奈良文化財研究所



平城宮の朱雀門

奈良時代の都であった平城京の大内裏(天皇の住居とその周囲の官庁一帯)である「平城宮」の南門は、「朱雀門」と呼ばれています。

発掘調査により、平面規模は桁行5間、梁行2間の規模であることがわかりました。柱間はすべて等間隔で17尺(5.015m)です。従って朱雀門の平面規模は桁行85尺(25.075m)、梁行34尺(10.03m)で、都の正門にふさわしい巨大で莊厳な門です。

志波城の外郭南門

延暦22年(803)に造営された志波城の外郭施設の南門です。

発掘調査により、平面規模は桁行5間、梁行2間であることがわかりました。柱間の間隔は、桁行2.7m+2.7m+3.0m+2.7m+2.7m、梁行3.0m+3.0mで、建て替えはありません。秋田城の外郭施設の門より、全体的に規模が大きいものです。現在、志波城の外郭南門は、板葺きの櫓門として復元にされています。また、門には築地塀がとりつき、弓矢を射るための櫓があります。

払田柵の外郭南門

9世紀初めに造営された払田柵の外郭施設の南門です。

発掘調査により、平面規模は桁行3間、梁行2間であることがわかりました。柱間の間隔は、桁行2.86m+3.54m+2.80m、梁行3.32m+3.33mです。秋田城の外郭施設の門と平面規模が類似しており、大きさは秋田城の外郭南門が少し大きいです。建て替えはありません。現在、払田柵の外郭南門は板葺きの櫓門として復元されています。また、材木塀がとりつきます。



秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市教育委員会 秋田城跡調査事務所
〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号
[TEL]018-845-1837 [FAX]018-845-1318
[URL] <http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/Default.htm>
[E-Mail] ro-edac@city.akita.akita.jp



秋田城 あきまろ 呂くん

『秋田城』と、
みんなの絆を
つなぎたいから。

城門(外郭施設の門)

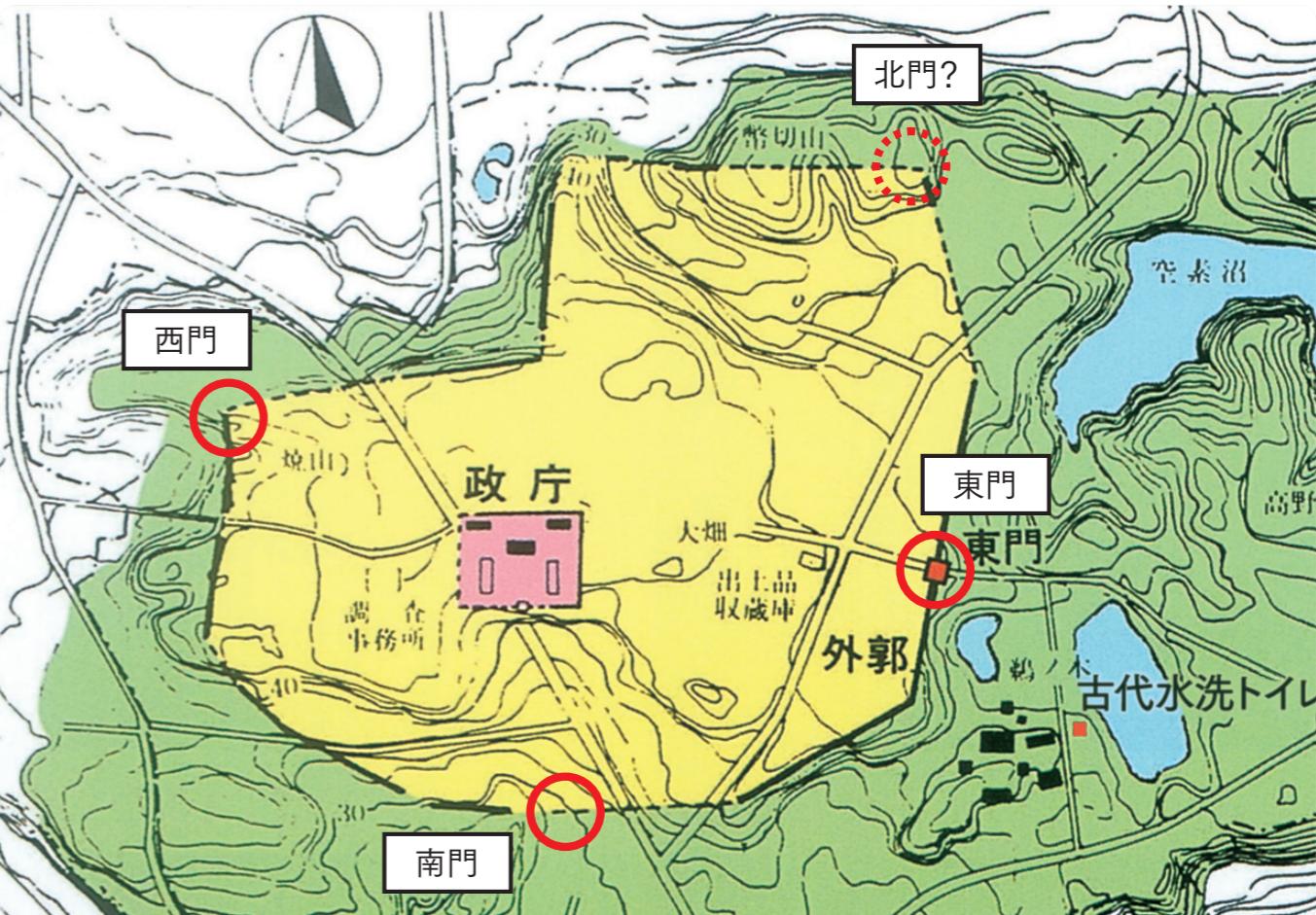


秋麻呂くん

通信

平成25年7月31日 秋田城跡調査事務所

秋麻呂くん通信は、皆さんに秋田城のことをよく知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。今回は、秋田城で発見された城門(外郭施設の門)について紹介します。



秋田城で発見された城門(外郭施設の門)

秋田城のような古代城柵官衙遺跡の外郭施設には、東西南北に出入りの城門があったと考えられています。これまで、秋田城跡では54次調査(平成元年度の調査)で東門、92次調査(平成20年度の調査)で西門、101次調査(平成24年度の調査)で南門が発見されています。北門もあったと考えられますが、現在のところ発見されていません。秋田城跡

の復元整備では、東門を立体復元しており、秋田城の史跡公園としてのシンボルとなっています。

こうした城門(外郭施設の門)は、いわば城柵の「顔」のような存在であり、それぞれの特徴から秋田城の役割を知ることができます。





秋田城 外郭東門



■発見された外郭東門の遺構(東から)

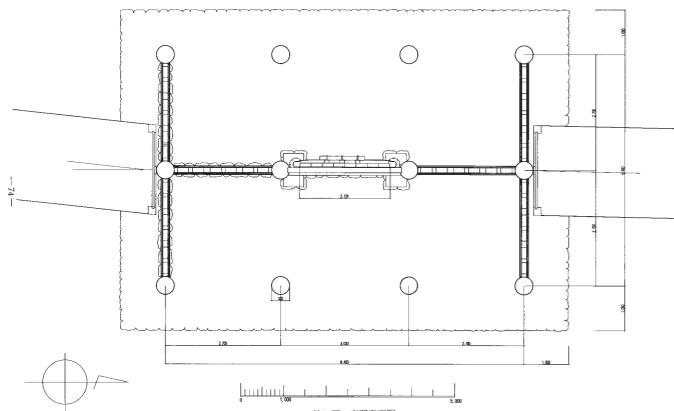


■復元された外郭東門(西から)

外郭東門は第54次調査の結果、平面規模は桁行3間、梁行2間であることがわかりました。門は掘立柱式の八脚門で、少なくとも2期の変遷が確認されています。柱間の間隔は、桁行 $2.7m+3.0m+2.7m$ 、梁行 $2.7m+2.7m$ であることがわかりました。発掘調査で外郭東門を発見した時、門の間を通る市道がありました。この市道は奈良時代から現代まで連続と使用されていました。



東門を通る道は奈良時代から
現代まで使用されていたんだ!!

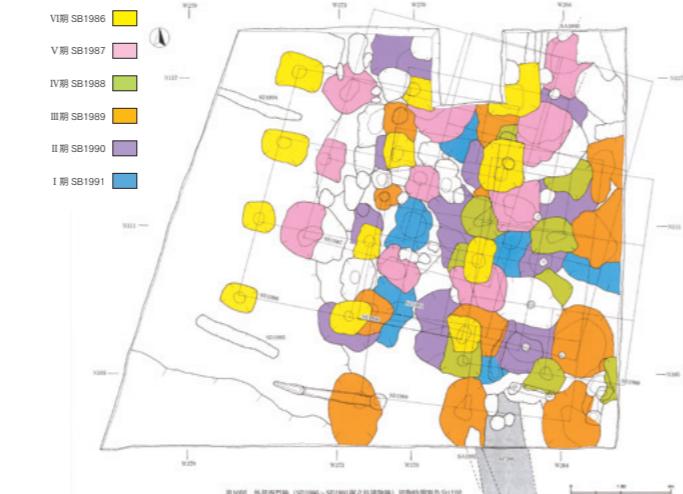


■外郭東門復元平面図

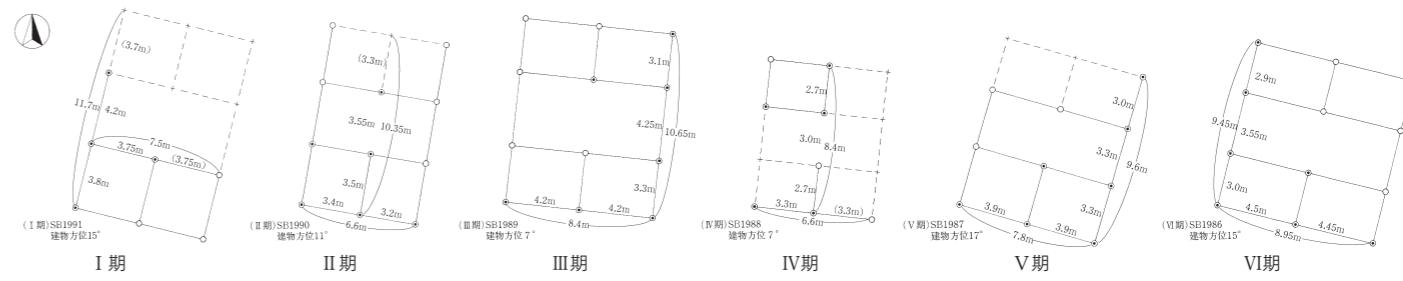
秋田城 外郭西門



■発見された外郭西門の遺構(南から)



■外郭西門の遺構図



■外郭西門の変遷

外郭西門は第92次調査の結果、平面規模は桁行3間、梁行2間の規模であることがわかりました。門は掘立柱式の八脚門で、6期の変遷が確認されており、秋田城が設置されてから約200年間継続的に門が設置されていました。柱間の間隔は時期により違いますが、3回目の建て替えが最も大きく、4回目の建て替えが最も小さくなっています。全体的に東門より大きく奥行きがあり、大型の門で2階をもつ重層門である可能性があります。西門は、日本海を望む高台に立地しており、秋田城の海側からの「玄関口」であるといえるでしょう。

秋田城 外郭南門



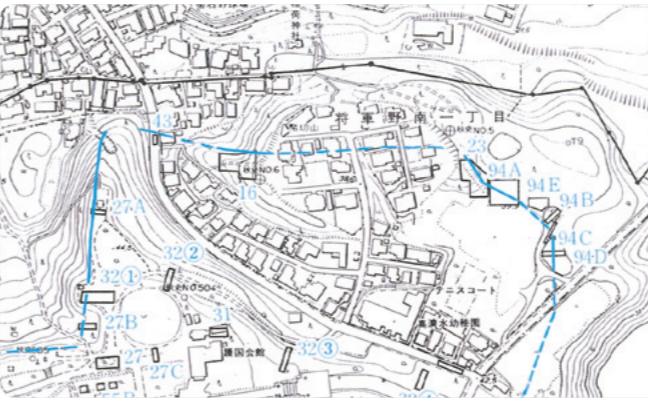
■発見された外郭南門の遺構(南東から)



■外郭南門の遺構図

外郭南門は第45次および101次調査の結果、平面規模は桁行3間、梁行2間の規模であることがわかりました。門は掘立柱式の八脚門で、少なくとも5期の変遷が確認されています。柱を据えた穴が全部は発見されていませんが、柱間の間隔は桁行 $3.9m+4.5m+3.9m$ 、梁行 $3.3m+3.3m$ の規模をもつと考えられます。外郭東門よりは大きく、西門とほぼ同じぐらいの規模を持っています。通常、外郭南門は正面の出入口であり、それにふさわしい規模をもっている門であるといえるでしょう。

秋田城 外郭北門



■外郭北門推定位置周辺地図

秋田城のような城柵官衙遺跡の外郭施設では、東西南北の門が造られていましたはずです。これまで40年以上にわたって発掘調査が行われてきましたが、未だ北門は発見されていません。北門を発見するのが今後の課題です。

北門はどこにあるのかな?

